

☆ 子ども会 (学習会) だより ☆

MY SKY 第7号 ☆ ☆

マイ スカイ

1996年5月28日火曜日発行(毎週火曜日定期発行)

発 行 者

板野中学校

学 習 会

編集・文責:吉成士

うんどうかい あき こうてい わ うたごえ
運動会/朝の校庭/クラスの輪/歌声さわやか/スピッツチェリー

毎年^{あき}秋に行われていた運動会が、今年^{せんじつ}はつい先日行われました。熱い^{ひざ}陽射しではありましたが、心の中にはさわやかさと、少し強くなったクラスの^{だんけつ}団結が残ったのではないでしようか。この運動会がこれからの学級づくりへのステップとなれば、言うことありません。

さて、今回は2年生の第1回全体学習^{ほうこく}の報告と、ちょっと^{へん}変かかもしれませんが、私が^こ個人的に興味をもった文章を紹介^{しょうかい}したいと思います。



◎2年B組「つらいこと あるねんな」(5月18日:2年第1回全体学習)

この18日に、2年生が今年度第1回目の全体学習を行いました。資料は「つらいこと あるねんな」でしたが、5時間目は仲間^{わだい}という話題についての議論^{ぎろん}になっていったと思います。6時間目もその流れからか、仲間について議論されていきました。

2Bのみなさんからも、「仲間をつくっていくために友達を信じていきたい」という^{ない}内容^{よう}の発言^{はつげん}が相次ぎ、たのもしさを感じました。

6時間目も多く^{つま}のみなさんが発言してくれました。そのいくつかをかい摘んで紹介したいと思います。

「クラスで、半分以上仲間をつくれればクラスが変わる」

「本当の仲間は自分にアドバイスをしてくれる」

「仲間がいるから勇気が出る」

「仲間^{うらぎ}に裏切られたらムカつくから、仲間はいない」

「僕の仲間は、うっとうしいくらい自分についてきてくれる」

「仲間になるには、相手^{あいて}を認め、積極^{みと}的^{せっきよくてき}に関わっていくこと」

「仲間は、月日^{つきひ}が経つごとに増えていく」

「変かもしれないけど、私にとっては何でも言える犬が仲間」

「私にとっては、本が私の友達」

「仲間は、つくる^{こわ}恐さを^こ越えなければならない」

「仲間づくりをするには、まず相手を信じることで、相手のいい面を見つけること」

「仲間に裏切られたらどうしようと思うこと自体、相手を裏切ることになる」

「人はみんな違うんだから、つき合っていくことが大切」

「ケンカをするのは^{とうぜん}当然のことで、それが^{ふつう}普通！」

仲間というものを、みんなが求め、^{なや}悩んでいるんですね。ただ、仲間というものはすぐにつくれてしまうのではなく、多くの時間といろんな^{けいけん}経験を^つ積み重ね、少しずつ^{きずな}絆を強くしていくように思うのです。これからも、今回の全体学習をきっかけにして、仲間というものを考えてみてください。ちなみに、その輪の中に私も入っていきたいと思います。



…^{はんしん}阪神・^{あわじ}淡路大震災…^{ひさい}被災された「^{しょうがいしゃ}障害者」のお役に立ちたい、Tシャツ・チャリティ

◎がんばる心はつづれへん！ガッツやKOBÉ

今年の3月に^{ひょうご}兵庫県に行ったとき、タイトルの言葉を使ったTシャツを^{はんばい}販売しているところへ出くわしました。Tシャツに使われているマークが^{けっこう}結構良かったので、思わず私もポロシャツを買い協力しました。たまに^き着ているので見てみてください。

そのポロシャツについていた、この会の^{ゆらい}由来を^{せつめい}説明する文章が、結構^{きょうみふか}興味深かったので、^の載せておきます。わかりにくいかもしれませんが、きっと深みのある内容だと思いますので、読んでみてください。

ニホンサル、マカカ・フスカタは、30年以上もの^{ちようき}長期にわたって、野生の^や状態^{じようたい}で^{かんさつ}観察されてきました。1952年、^{みやぎ}宮崎県の^{にちなんかいが}日南海岸公園内にある^{こうしま}幸島で、科学者たちは、餌付けのために、サツマイモを砂浜に^{すなはま}投げ与^{あた}えていました。サルたちは、このサツマイモの味がとても気に入ったようでした。

ある日のこと“いも”という名の^{せいご}生後18カ月の雌ザルが、砂のついたサツマイモを近くの^{あさせ}浅瀬で洗うことによって、その問題は解決する、ということを発見しました。また、彼女の遊び友だちも、すぐにこの新しい方法をおぼえ、遊び友だちの母親たちもまた、子どもたちからそれを学びました。

日本の科学者たちは、このサルの^{ぶんか}文化的な^{はつめい}発明が、さまざまなサルたちによって^ま真似^ねられ、^{じよじよ}徐々に取り入れられていく^{ようす}様子を、目の前で^{かんさつ}観察することができました。

1952年から1958年にかけて、若いサル全員が、この砂のついたサツマイモを洗うことによってもっと食べやすくするという方法を、身につけました。大人の間では、自分の子どもから学ぶことができた大人だけが、この社会的な革新かくしんともいえる新文化しんぶんを習得しゅうとくしました。

しかし、子どもたちを真似ようとしなかった大人のサルたちは、依然いぜんとして、砂のついたままの汚れたサツマイモを食べ続けていました。

ところが、驚おどろくべきことが起こったのです。1958年の秋には、正確せいかくな数は報告ほうされていませんが、幸島のサルたちの中に、食前しょくぜんにまず洗うという習慣しゅうかんを身につけたサルが相当数そうとうすういることが、科学者たちによって確認されていまして。さて、ある朝、太陽が昇った時に、幸島の99匹目のサルが、サツマイモを洗うということを知ったとします。そしてその日の屋近くになって、“百番目”にあたるサルが、サツマイモを洗うことを学んだ時まさに、その瞬間しゅんかんに……

突然とつぜん、それは起こったのです！その日の夕方までに、その群れの中の、ほとんど全部のサルたちが、サツマイモを浅瀬あさせに持って行って、洗いはじめたのです。

この百番目のサルが新しく加わることによって生じたエネルギーが、どういう理由か、私たちの概念がいねん……いうならば“常識”を、突き破ってしまったのです。そして、問題は、それだけで終わったわけではなかったのです。

日本の科学者たちによって観察かんさつされたもっとも驚くべき“現象”というのは、そのサツマイモを洗うという習慣しゅうかんが、その後、自発発生的に“海を越えた”という事実です。他の島のサルの群れたち、さらには大分県の高崎山おおいだ たかさきやまに棲むサルの群れも彼らのサツマイモを洗いはじめたのです。

ニホンザル、マカカ・フスカタに起こったこのような事実は、ある特定の臨界点とくてい りんかいてんを満たすだけの人々が、ある自覚じかくに到達とうたつすると、その新しい自覚は、ひとつの心から、もうひとつの心へと伝わるのだ、ということを裏付けうらつけるものだといえます。

「百番目のTシャツ」の会の由来：ニューエイジ「大曼陀羅」北山耕平編より

これを読んだとき、私は信じることはできませんでした。「どうして違う場所にいたサルが同じことをし始めるのか？いや！そんなことは考えられない！」と……。けど、もしそれが本当ならば、私たち人類もまた、当然のごとく進化の途中しん か とちゅうにいることになります。

昨年NHKで放送ほうそうされていた「生命40億年せいめいはるかな旅おくねん」を、ビデオにとってよく見るのですが、本当に生命の進化ふしぎは不思議げんざいです。現在、地球上には3000万種しゆの生物せいぶつがいる

のだそうですが、それらは40億年の歳月を経て分化してきました。私たちが生きられて、たかだか100年です。そんなことを考えると、人間が人間を差別するなんてアホらしいことです。こんなアホらしいことで、なんで悩まないかんのだろうと思います。そんなことで悩むよりも、短い人生、もっと充実してすごしたいものです。

同じ人生歩むなら、みんなが納得いくような歩み方をするべきですな！



◇ これからの日程 ◇◇◇

いよいよ中間テストが目前に迫ってきましたが、次に読んでもらう文章は、4月の中頃に私の元へ届けられたものです……。

今日Yちゃんと話してたら「勉強すごい楽しいよー」ってYちゃんが言った。私とMちゃんは「ええー！？楽しい？勉強が？？」と口を揃えて言ってしまった。勉強と聞いたら、テストの点数や順位を考えて、イヤと思ってしまう。でも実際勉強って本当は楽しいことなんだよなあ。

1年の最初の頃は、もう楽しくって楽しくってしょうがなかったくらい。はりきってた。今でも「勉強は嫌と思うけど、知識はたくさん身につけたい」というわがままな願望を持っているし……。

何が原因で勉強が嫌になったかを考えると、どうやら成績の順位だけではないような気がする。ただ、自分にあまくなって、勉強をしなくなって、それでわからなくなって嫌になってる気がする。それを「順位をつけられて人と比べられるようで嫌」って、人権問題を武器にして、言い逃れをしているような気もする。わからんけど。

自分が好きで学ぼうという姿勢があれば、順位など気にせず、自分のペースで一步一步進んでいける気がするような、せんような……。うーむ

でもまあ、Yちゃんのように素直に「勉強が楽しい」って言えるのが、本来の姿だと思う。そう考えると、やっぱり勉強は楽しいんだ。誰にやらされるのでもなく、自ら学ぶのが、本当の勉強だと、当たり前のことをつくづく考えてしまった。3年女子

勉強ってどうしてするんでしょう？私も悩んでしまいます。でもいま言えることは、その昔、わからなかったことがわかったとき、心が大きく揺れたっていうこと。その中でも、特に嬉しい時は「ウワァー」っていう感じが体の芯からこみあげてきたものです。そんな頃のことを思い出しながら、素直に勉強に取り組めるようになりたいものです。

また、来週の木曜日には学年部落問題意見発表会があります。それをひかえて、各学級

で学級発表会をもつことになると思いますが、自分自身納得のいく^{なっとく}原稿^{げんこう}を書いてのぞめるようにしてみましょう！そしてこの^{きかい}機会を通じて、より良い学級にしていきましょう！

★ ★ ★ ★ ★

5月30日(木) 1年第1回全体学習1年D組：資料「だからわるい」

6月1日(土) 第1回部落解放中学生交流会実行委員会(板野町総合センター)

4日(火) 『MY SKY 第8号』発行日

6日(木) 学年部落問題意見発表会、校内同和カルタ取り大会

11日(火) 校内部落問題意見発表会

『MY SKY 第9号』発行日

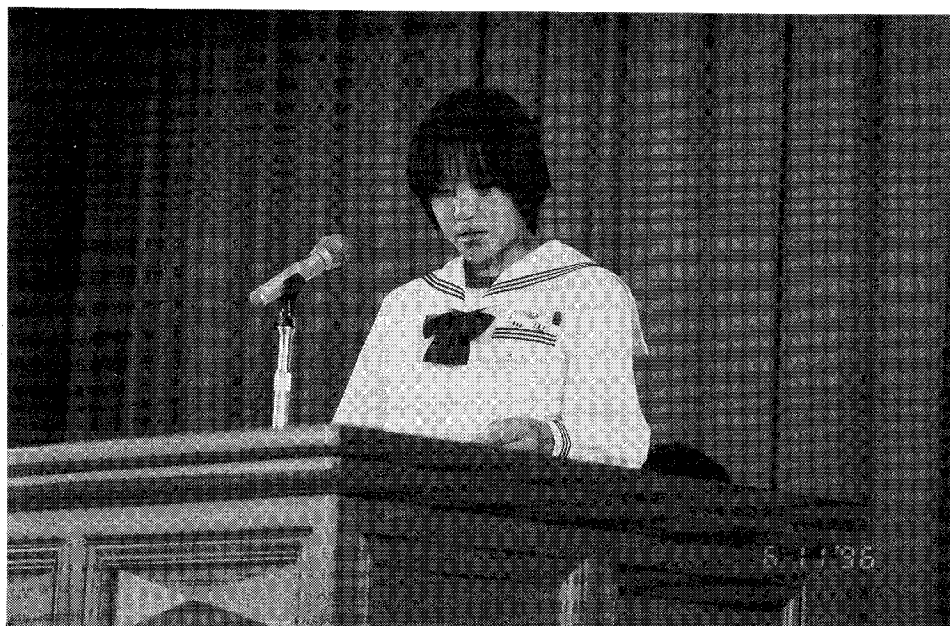
13日(木) 3年第2回全体学習3年C組(板野町同和教育研究会)：資料「仲間と共に」

18日(火) 『MY SKY 第10号』発行日

※ 「MY SKY」に関する感想や意見を広く求めています。取り上げてほしいことや日頃疑問に思っていることなど、何でも結構です。ぜひとも吉成までお便りください！

※ 本誌に掲載している参考文献等についてのお問い合わせは吉成までお願いします。みなさんもしっかりと原本を読んでみて下さい。

夏休みに行う第1回部落解放中学生交流会をひかえ、この6月1日に実行委員会(板野町総合センター)を開きます。大勢というわけにはいきませんが、奮って参加してください！申し込みは阿部か吉成までです。



部落問題意見発表会より